

美学・芸術論の学術誌「カリスタ」を発行しております、東京藝術大学美学・芸術論研究会は、昨年度「美学への挑戦 アートプラクティスの現場と「公共性」というテーマでシンポジウムを開き、現代のアート実践の諸現場を基点として、現代の美学・芸術論的研究の新たな方向を探りました。その流れを意識しつつ、今年度は、未曾有の被害をもたらした3月11日の東日本大震災以降の状況における美学・芸術論や芸術表現の動向を視野に入れたシンポジウムを開くことにいたします。

その動向とは、本年度開かれた三つのシンポジウム、つまり「美学 vs. 現代アート」(4/23 美学会：北仲スクール)「クシユトフ・ヴォディチコ：アートと戦争」(8/8-10 北仲スクール)「アイステューズー感性論としての美学をめぐって」(10/17 美学会)です。それらは、テーマがそれぞれ異なるにせよ、その問題意識が交錯しつつ、3.11の現実を目の当たりにした上で、感性のあり方や芸術の使命あるいは可能性を考察するという問題意識を共有していました。

一方、芸術表現の動向に目を向けると、アーティストが被災現場に直接関わり、被災者と深く関わる多くのアートプロジェクトの実践がありました。ここでは、極限の状態、アートの意味やその役割が検討されてきました。本シンポジウムは、被災地より2名のパネラーを迎え、そういった芸術的な営為と、3.11がもたらした人間の感性のあり方を、美学・芸術論の問題として検討いたします。

美学・芸術論研究会 シンポジウム

3.11をめぐると 芸術的営為と 感性

2012年1月8日(日)

14:00-17:00

会場：東京藝術大学 上野キャンパス 中央棟 第三講義室

主催：美学・芸術論研究会

実践女子大学研究プロジェクト「大震災以降の感性論」

司会

益田勇一 (白鷗大学)

コーディネーター

椎原伸博 (実践女子大学)

パネラー

松崎俊之 (石巻専修大学)

村上タカシ (宮城教育大学)

鈴木賢子 (東京藝術大学)

石田圭子 (東京藝術大学)